

我が校の強み弱み分析・評価シート

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

<教科について>

- ・国語科では、「話すこと・聞くこと」の領域について、他の領域と比較して正答率が高い傾向にありました。「書くこと」の領域は、県や全国よりも低い正答率でした。
- ・算数科では、すべての領域において県や全国よりも低い正答率でした。「データの活用」の領域が特に低い傾向にありました。

<児童質問紙について>

- ・「自尊心」「規範意識」「生活習慣」「自己有用感」に関する項目に肯定的な回答が多く見られました。
- ・「地域・社会への関心」については、県・全国よりも高い傾向にあります。

《強み・弱み》

国語科では、学習における「めあて」の意識化や「振り返り」指導を重視してきた結果、思いや考えを記述する力が定着してきています。しかし、目的に応じて必要な情報を取り出して整理し、自分の考えをまとめることには、弱さが見られます。算数科では、「データの活用」領域において、示された表やグラフから、その特徴を見出し、考察する力に弱さが見られました。身近な生活場面のデータを集めて表やグラフに表し、傾向を把握したり、比較したり、多面的に吟味するなど指導の充実を図ります。学習に対する意識や規範意識、自己有用感、地域への関心の高さは、本校ならではの少人数指導や地域の方々との連携による学習や体験活動の積み重ねによる成果が大きいと考えます。

【指導の充実に向けて】

- ・「仲間の良さを認めて、進んで学び、考えを深める子ども」の育成を図ります。そのためにも言語活動を大切に、児童相互に思いや考えを交流する機会を設定するなど、全学年で、発達段階に応じて、伝え合い、深め合える授業づくりを目指します。
- ・少人数の利点を活かし、授業中も一人一人の課題に応じた指導の充実を図ると共に、支持的な学級を醸成し、話し合い活動などを通して、どの子にも「主体的・対話的で深い学び」を実現することに力を入れます。
- ・授業では、身に付けさせたい力に応じためあての設定を行い、自身の学びを振り返り、次時の授業へ繋がられるよう、「めあて」と「振り返り」の充実を図ります。
- ・朝の読書や朝学習での視写、音読、図書室の積極的な利用、読み聞かせ、読書週間の取組等を通して、語彙力や読書への関心を高め、読書活動の充実を図ります。
- ・反復練習による学習内容の定着や自主的な家庭学習ができるよう宿題を工夫し、家庭と連携しながら学習の習慣化を図ります。
- ・地域教材を取り入れた社会科・生活科・総合的な学習の時間での取組や家族も含めた地域の人々との関わりを通して、恵まれた自然や文化を伝えてきた郷土を誇りに思う意識の醸成と共に、豊かな心の育成を図ります。
- ・運動会や児童会の活動、日々の清掃活動において、全校たてわり(異学年)で取り組み、高学年児童のリーダーシップの育成および豊かな人間関係づくりに努めます。